



## 東地中海地域ニュース

### トルコ：イラン関係の分析

(4月25日ユーラシア・クリティック誌)

1. サウジアラビアのアブドゥラー国王は2006年8月にアンカラを訪問し、サウド外相がトルコとの関係を「戦略的協力関係」と述べるなど関係強化を図っている。これはトルコが軍事力、人口、経済など国力においてイランと対等であると見ていることに起因する。アラブ諸国は、イランが再び湾岸諸国及び穏健なアラブ諸国の権益を脅かし得ると考えており、イランの脅威に対する共通認識をトルコも共有するだろうと考えている。
2. 一方で、ギュル外相は、サウジとの関係を「戦略的協力関係」と表現するのを避けた。また、トルコ・イラン両国は、お互いを脅威にさらすような危険を冒すことなく、協力していくと述べ、同一宗派による分極化対策に反対する旨付け加えた。しかしながら、トルコはアラブ諸国同様、イランを脅威と見ており、これまでイランが自国の権益を守り、隣国に圧力をくわえるために、武装勢力の援助を通じてトルコを攻撃してきた歴史があることを認識している。
3. トルコとイランは、地域の中東問題について全く異なる見解を持っている。イラン大統領は、イスラエルを世界地図から抹消するように求めており、多くのイスラム武力勢力を支援するように求めている。一方、トルコは、イスラエルと良好な関係を保ち、平和は米国のロードマップに沿って実現すると信じており、また大中東構想を支持し、イスラム世界における民主主義を推奨している。
4. 他方で米国の反対にもかかわらず、トルコは石油及びガスの取引におけるイランとの協力関係の持続に固執している。しかし、この協力関係は、米国政府に対する挑戦ではなく、国益にかなった政策の一端であると考えられている。トルコは米国と、対話や相互理解に基づくバランスの取れた関係を築きたいと考えている。トルコは、自国のエネルギー需要を満たすため、また中央アジアとヨーロッパ間の重要なエネルギー輸送の回廊となるという戦略的計画を後押しするために、イランのガスを必要としており、エネルギー分野での協力を継続するということには客観的な根拠があると考えている。
5. だが、トルコとイランとの間の最近の緊密な動きにもかかわらず、イスラエルとの密接な関係により、トルコはイランから信頼されることはないと考えている。トルコとイランは地域の主要問題について全く異なる見解を持っているからだ。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799